

10/9
民報

総裁選・衆院選に絡む政策論争

財務次官「バラマキ合戦」

財務省の矢野康治財務次官が、八日発売の月刊誌「文芸春秋」十一月号に寄稿し、総裁選や衆院選に絡む政策論争を「バラマキ合戦のよう」と批判し、このままでは国家財政が破綻すると訴えた。現職の事務官トップが雑誌で政策に関する意見を表明するのは異例。

た。



矢野康治
財務次官

寄稿では、日本の財政赤字を「第二次世界大戦直後の状態を超えて過去最悪であり、他のどの先進国よりも劣悪な状態」と説明。日本以外の先進国では経済対策を打つ際、財源の議論が必ずなされているので、「財源のあてもなく公助を廳りませようとしているのは日本だけ」と指摘した。

昨年の一ヶ月間の定額給付金を「有権者に歓迎されることはあつても意味のある経済対策にはほとんどならぬ」と批判。また、「本当に巨額の経済対策が必要ない」と批評した。

矢野氏の寄稿について、鈴木俊一財務相は八日の閣議後会見で、麻生太郎前財務相に了解を取ったと明らかにし、た。「読んでいない」とい

ながらも、「政府の方針を否定するようなものではないと受け止めているし、中身が問題だと思っていない」と話した。

矢野氏は二〇一二一五年

には当時官房長官だった菅義偉前首相の秘書官を務めた。官房長だった一八年には、森友学園を巡る決裁文書改ざん問題の調査報告書の取りまとめ役を担った。その後、予算編成を担当する主計局長を経て今年七月に次官に就任した。

(原田晋也)

岸田首相は八日、財務省事務次官が衆院選や自民党総裁選に絡む政策論争を批判したことに関する対応を問われ、「中身を読んでいないので、しっかりと読んでから考えたい」と述べた。